

# 関東森林管理局 森林技術・支援センター 概要



溪畔域の植生回復試験（御前山ケヤキ展示林） カタクリ回復状況

ようこそ、森林技術・  
支援センターへ  
当センターのお仕事を  
紹介します！



しんこ  
森狐くん

# 森林技術・支援センターの業務等

平成7年3月に国有林を利用して行う森林・林業に関する技術の開発、指導及び普及を行うことを目的として、旧東京営林局の新しい機関「森林技術センター」として発足しました。その後平成16年4月に組織機構改革により、関東森林管理局森林技術センターとなりました。

平成25年4月に一般会計に移行したことに伴い、「森林技術・支援センター」となり、国有林だけを対象とした技術開発を行うだけではなく、森林の有する公益的機能の高度発揮等に対する国民の要請に対応しつつ、民有林への普及を念頭にした林業の低コスト化等に向けた技術開発を推進するとともに、その成果を国有林野の管理経営や民有林への普及・定着に取り組むこととしています。

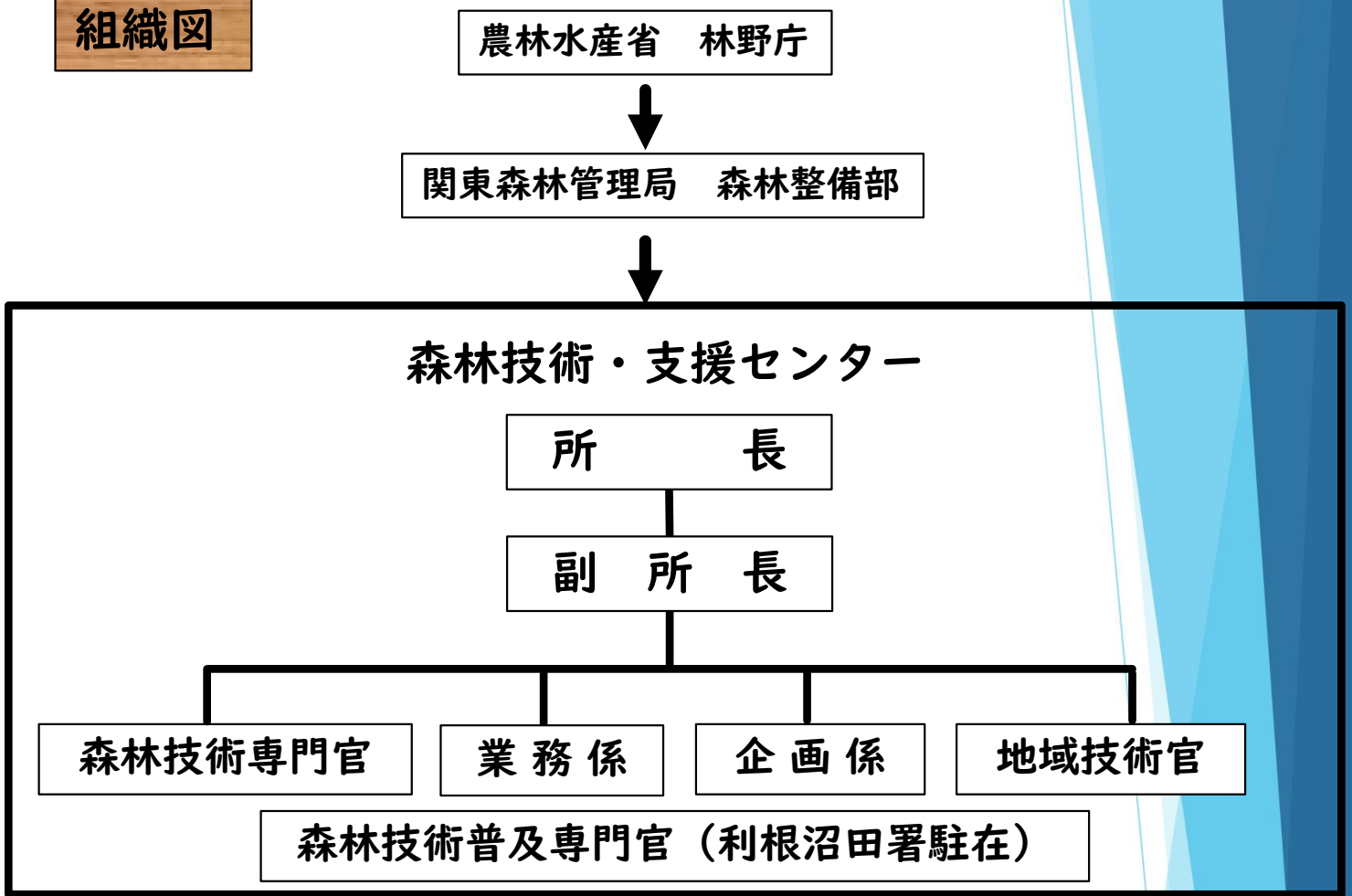
また、現地検討会の実施や民有林の人材育成への支援及び技術開発成果の情報発信等により森林技術の普及・推進に努め、地域の林業振興に寄与することとしています。

## 沿革

平成 7年 3月	東京営林局 森林技術センターを設置
平成16年 4月	関東森林管理局 森林技術センターに改称
平成25年 4月	関東森林管理局 森林技術・支援センターに改称

# 森林技術・支援センターの組織

## 組織図



## アクセス図





# 技術開発課題の紹介

## 1. 点検・補修を含めたシカ柵コスト最小化に向けたコスト把握手法の確立

●場所：関東森林管理局管内国有林

●期間：令和4年度～令和6年度

●共同研究機関：森林総合研究所

●概要：シカ柵の情報の収集の仕方を検討・試行し、情報を収集・分析することにより、維持管理コストを含めたシカ柵コストの把握手法を確立します。また、得られた成果や情報を、国有林の取組に活用するとともに民有林関係者に発信し、地域の森林・林業の課題解決に取り組みます。

●取組内容

■シカ柵について、資材種・設置方法ごとの点検にかかる人工数、補修の形態や原因及び補修経費といった維持管理コストにかかる情報の収集の仕方を検討・試行します。

■合わせてシカの生息密度や立地条件、植生等の関連情報を収集します。

■これらの情報を解析し、シカ柵の維持管理経費に影響を与える因子を抽出します。

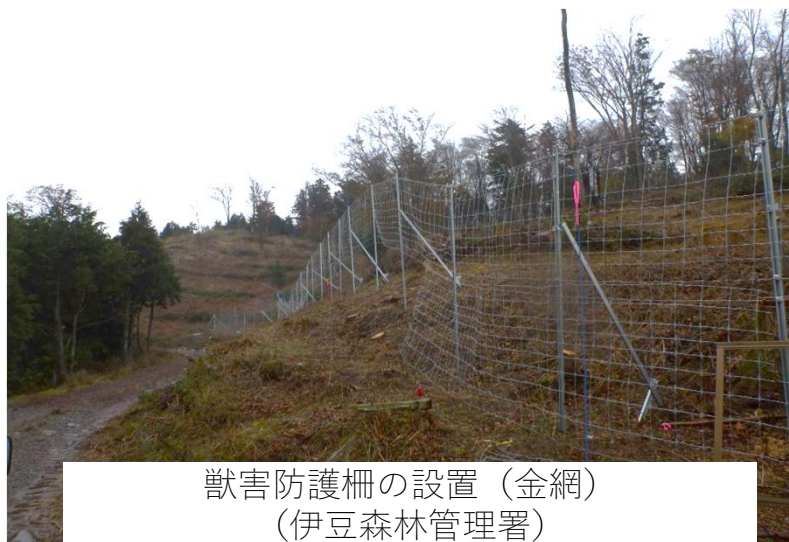
■抽出した因子の値を入力または選択肢を選択することにより、シカ柵設置の検討時に、現地条件に応じたシカ柵の資材種・設置方法の比較検討ができる「シカ柵総経費算出シート（仮称）」を開発し、シカ柵トータルコストを可視化します。



獣害防護柵の設置（ネット）  
（伊豆森林管理署）



深刻な食害を受けた苗木  
（左：スギ、右：カラマツ）  
（群馬森林管理署）



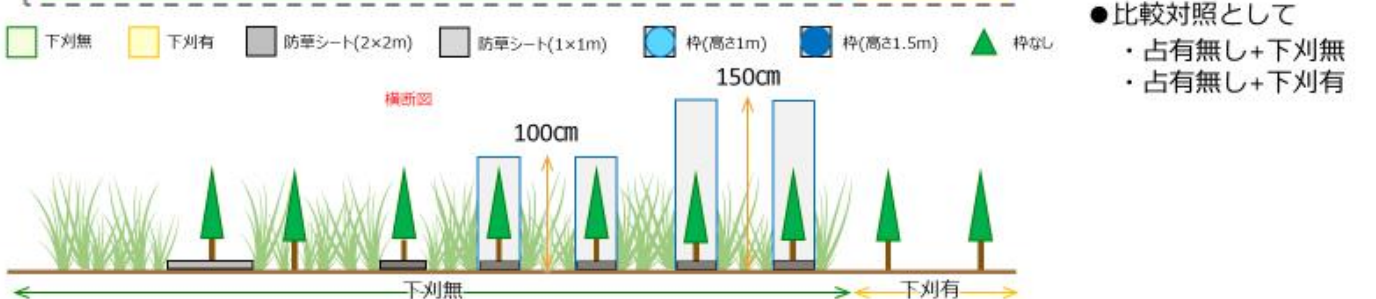
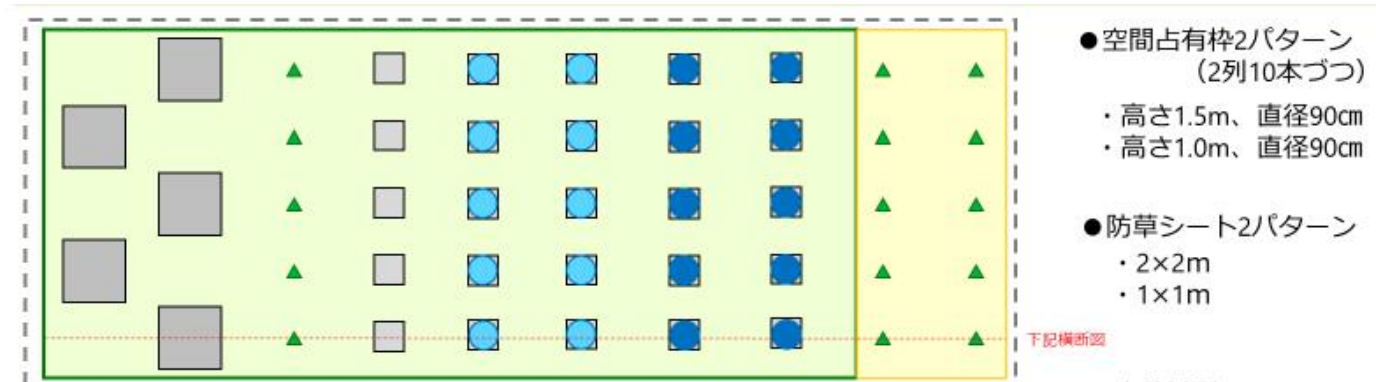
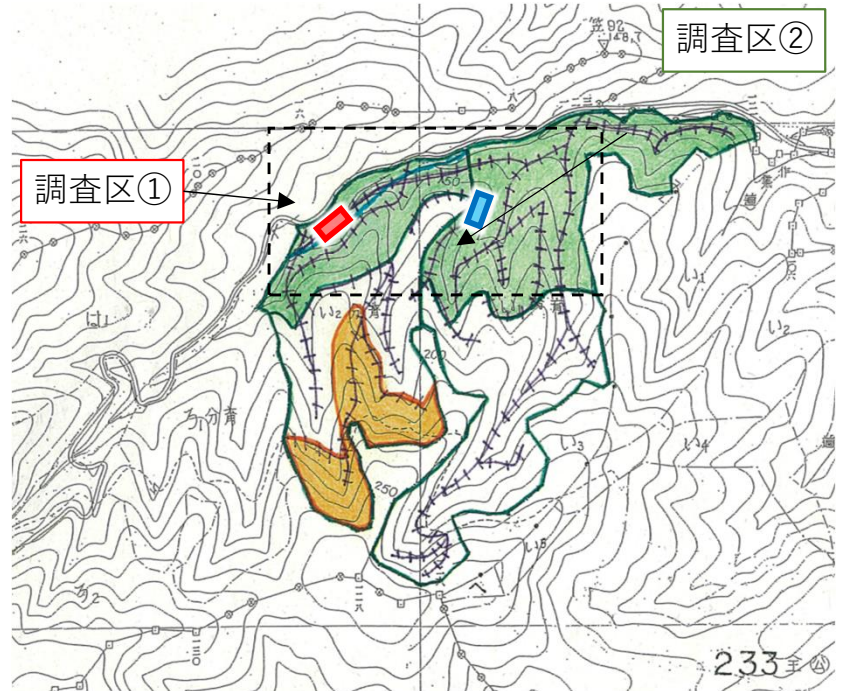
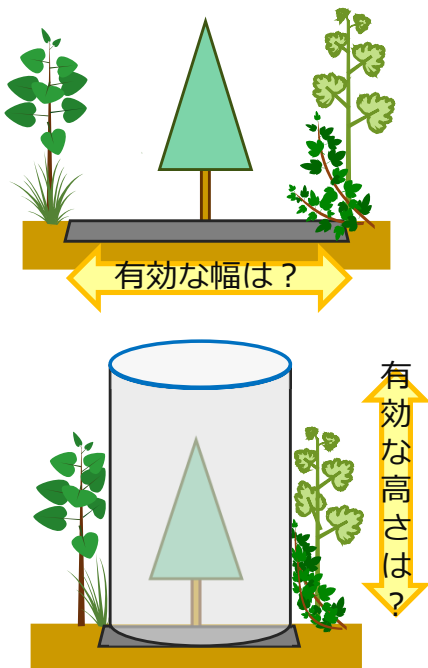
獣害防護柵の設置（金網）  
（伊豆森林管理署）



## 2. 造林保育作業の省力化に必要な苗木周囲の空間の把握

- 場所：茨城森林管理署管内  
笠間市南小泉 長峰国有林234い2林小班外
- 期間：令和6年度～令和8年度
- 概要：競合植生に成長を阻害されないために、苗木の初期生育期間において必要な占有空間の幅・高さについて、防草シートのみ、防草シート+障壁とした場合について検証する。占有空間の高さの検証は、安価で入手しやすい素材を活用した空間占有枠（仮称）を作成、設置して行う。枠については、障壁としての、また苗木の成長を阻害しない観点からの構造や素材の効果を評価する。無下刈とするための物理的な方策を提案する。また、それを取り入れた、初期保育期間（植栽後5年間程度、初回除伐まで）における実際の施業体系を考察する。

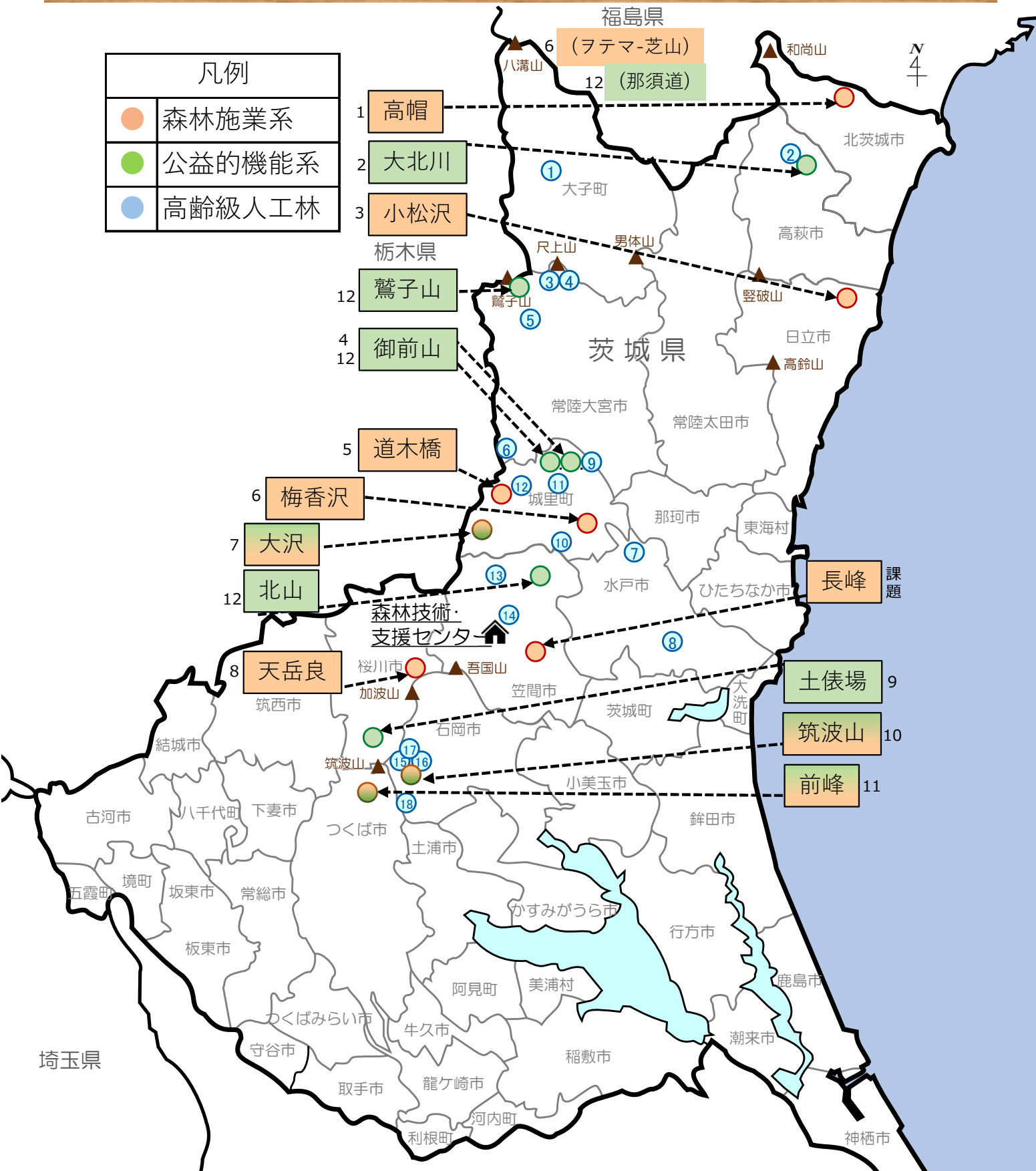
植栽木の成長に必要な占有空間は？



- 空間占有枠2パターン  
(2列10本ずつ)  
・高さ1.5m、直径90cm  
・高さ1.0m、直径90cm
- 防草シート2パターン  
・2×2m  
・1×1m
- 比較対照として  
・占有無し+下刈無  
・占有無し+下刈有

# 試験地等位置図

凡例	
● (赤)	森林施業系
● (緑)	公益的機能系
● (青)	高齢級人工林



高齢級人工林調査地 2024年4月現在

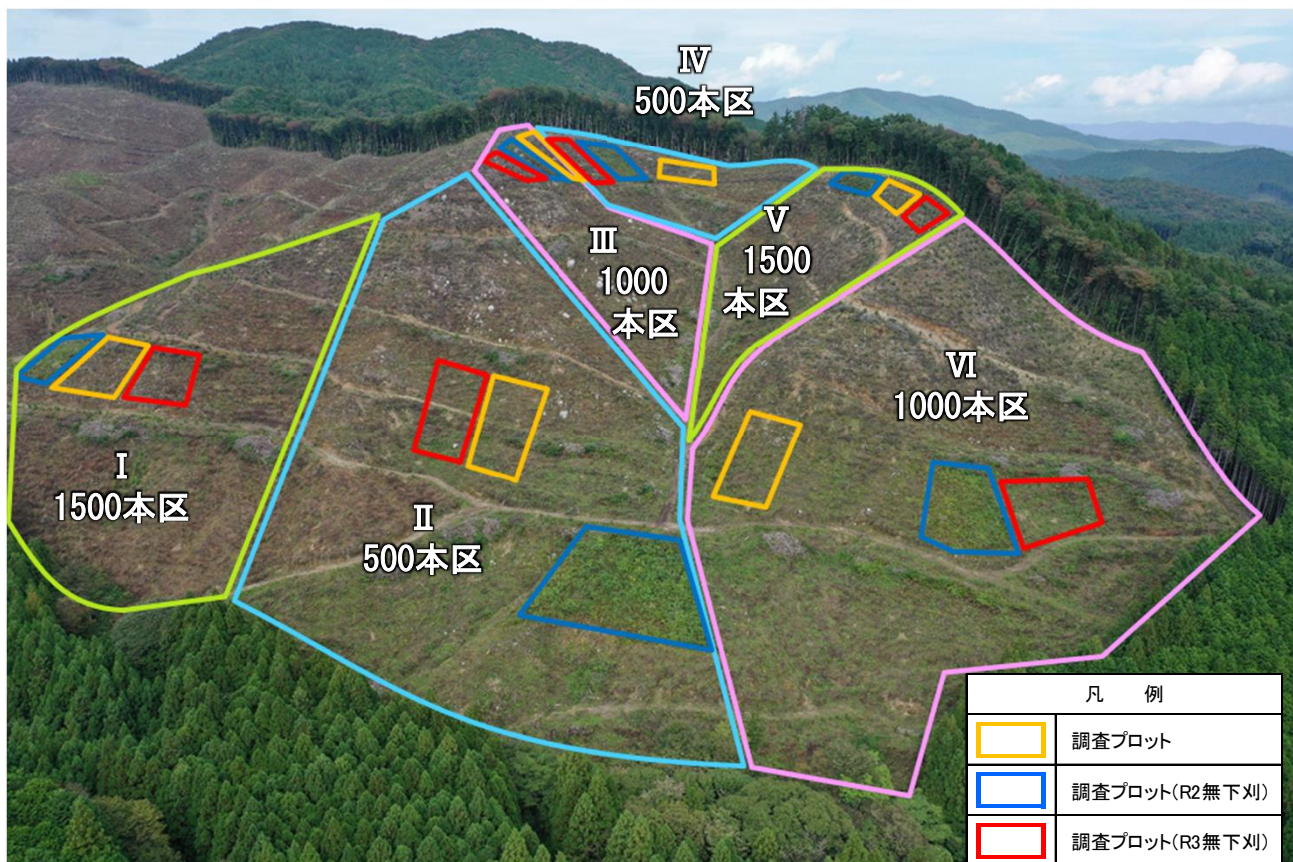
No.	樹種	林令	No.	樹種	林令	No.	樹種	林令	No.	樹種	林令	No.	樹種	林令	
①	スギ	223	⑤	ヒノキ	114	⑧	サワラ	272	⑪	ヒノキ	119	⑬	ヒノキ	299	
②	スギ	115	⑥	スギ	123	⑨	スギ	171	⑫	ヒノキ	124	⑭	スギ	154	
③	サワラ	118	⑦	ヒノキ	176		ヒノキ	171		ヒノキ	120	⑭	ヒノキ	199	
④	サワラ	113		広葉樹		⑩	ヒノキ	242					⑮	ヒノキ	124
													⑯	ヒノキ	124
													⑰	ヒノキ	115
													⑱	サワラ	123





# 大苗植栽による長期密度管理施業観察試験

- 場所：茨城森林管理署管内  
北茨城市関本町富士ヶ丘 高帽国有林1039ほ1林小班
- 期間：平成31年度～令和4年度
- 共同研究機関：森林総合研究所
- 概要：再造林コスト削減及び様々な目標林型に最適な林分密度の解明を目指して、植栽密度の異なるスギ植栽試験地を設定しています。大苗による低密度植林を導入した場合の造林工程の検証、さまざまな微地形に対応した最適植栽密度の解明、大苗による下刈り省略の可否を検証します。



## ■プロット設定

### ●植栽本数

- ① 500本/ha
- ② 1,000本/ha
- ③ 1,500本/ha

## ■植栽苗

80cmスギ苗（規格外）

## ■下刈回数

3回程度実施

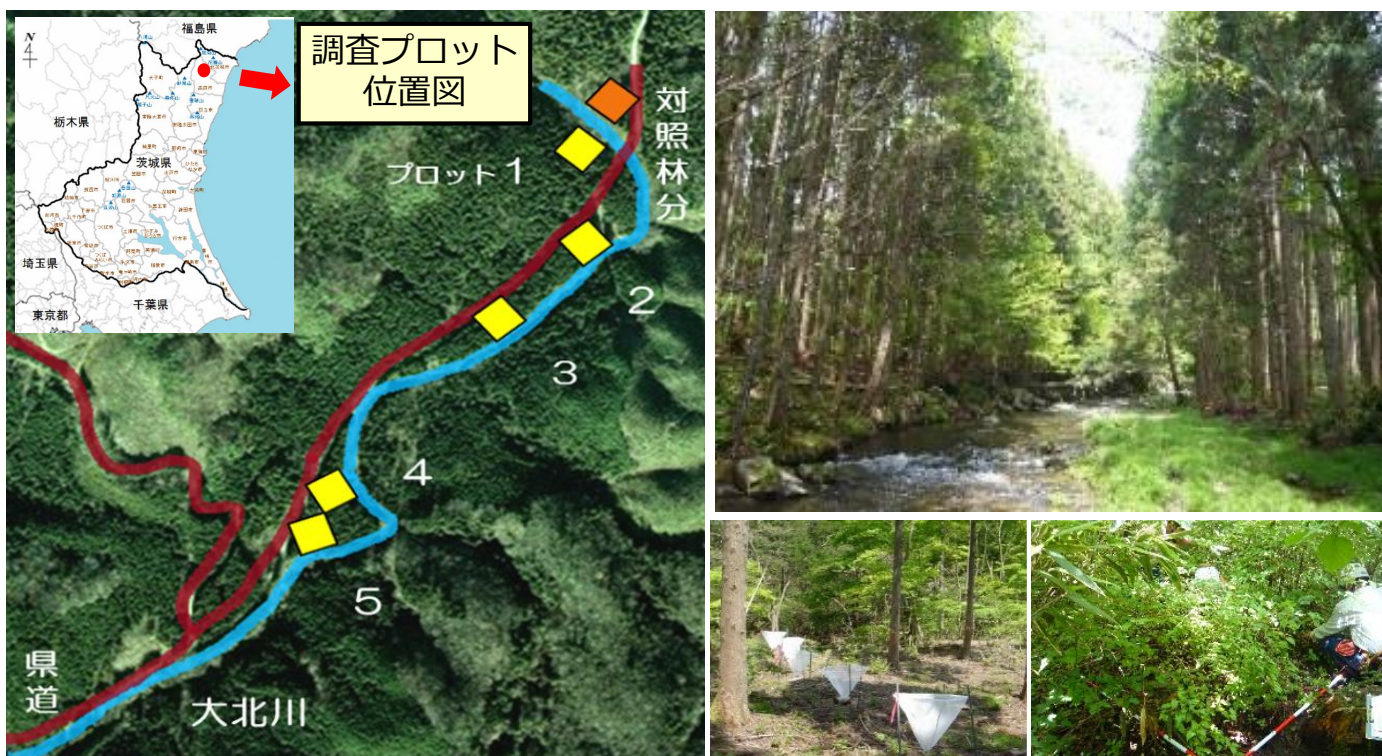
## ■調査項目

- ・樹高
- ・枝張り
- ・競合種
- ・根元径
- ・競合状況





- 場所：茨城森林管理署管内 【大北川溪畔林試験地：約4ha】  
高萩市大字下君田 横山国有林1078り林小班（一部）外
- 期間：平成27年度～
- 共同開発機関：森林総合研究所
- 概要：溪畔には、一般に土石流に伴う攪乱によって形成される変化に富んだ環境に適合した森林が成立するが、現状が人工林になっている箇所も多い。生物多様性の保全の観点から、人工林を自然林に誘導していくことが望まれる場合もあるが、そのための技術は確立されていない。このため、大北川流域の溪畔に存する人工林について、立地条件に応じた自然林に効果的かつ着実に誘導していくための天然更新補助作業の具体的な指針を作成する。  
試験地設定年度：2004(H16)年度



茨城県北部の大北川流域の水際まで植えられたスギ人工林の試験地 (1971(S46)年植栽)

### 開発方法

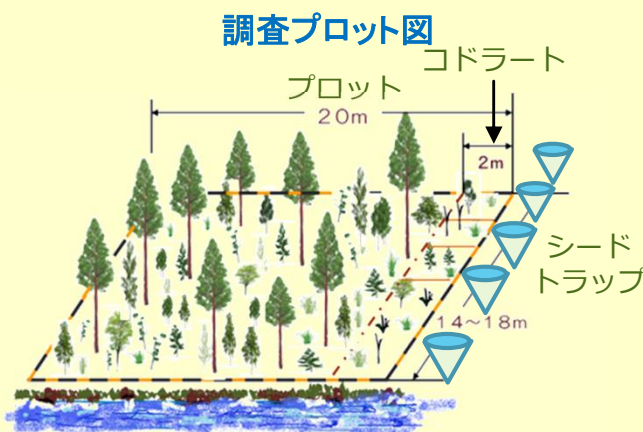
#### 1 調査プロット

- ① 各20m×14～18m
- ② コドラート2m×2m：7～9設置
- ③ コドラート横にシードトラップ設置

#### 2 調査方法

- ① 胸高直径5cm未満（稚樹）
  - ① 高木性木本の本数と樹高
  - ② コドラード横にシードトラップ
  - ③ シードトラップ周辺の種子源調査

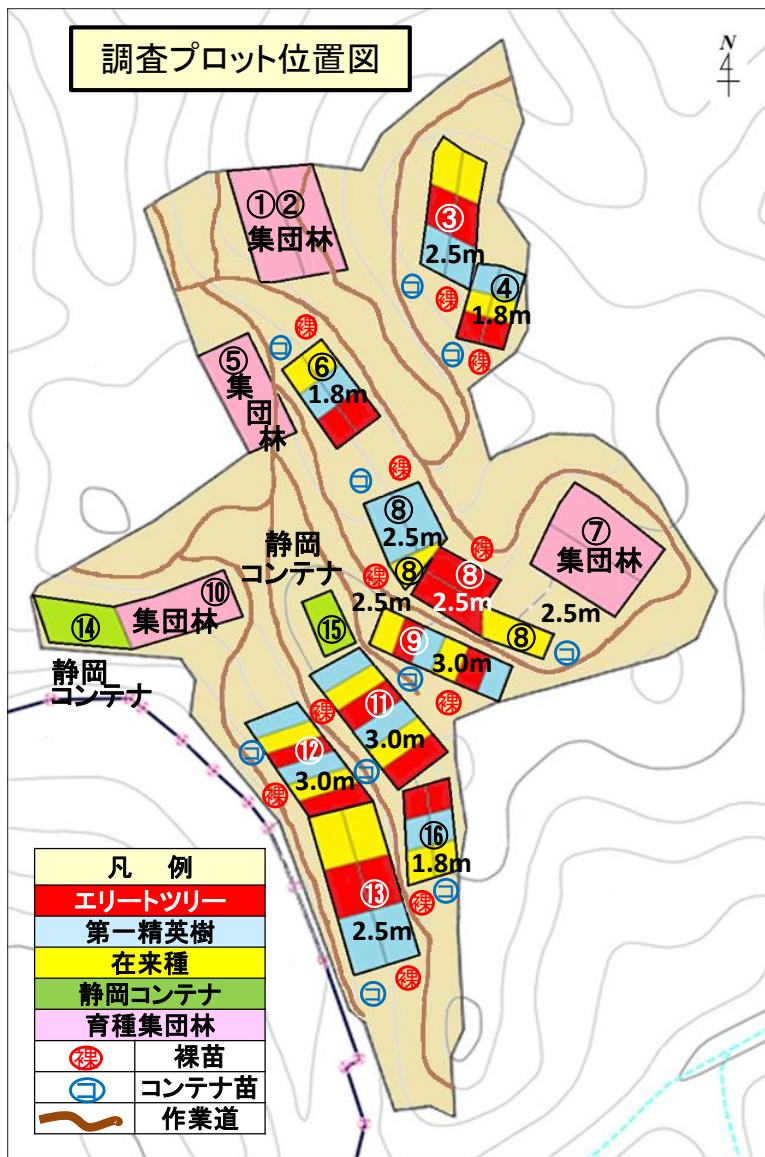
- ② 胸高直径5cm以上（上木）  
スギ植栽木と高木性木本の胸高直径と樹高







- 場所：茨城森林管理署管内  
日上市十王町高原 小松沢国有林1186ほ林小班（一部）
- 期間：平成30年度～平成32年度
- 共同開発機関：森林総合研究所 林木育種センター
- 概要：第二世代精英樹（エリートツリー）の交配家系をコンテナで育苗した苗等を植栽し、下刈りの必要回数等を検証するとともに、成長特性を解明することによりエリートツリーの育林特性に関するマニュアルを作成し、育林技術の普及を図る。



プロット植栽内訳		
プロット番号	(㎡)面積	摘要
①	2,130	育種集団林
②		育種集団林
③	1,480	2.5m
④	870	1.8m
⑤	1,290	育種集団林
⑥	1,100	1.8m
⑦	2,150	育種集団林
⑧	2,450	2.5m
⑨	1,220	3.0m
⑩	1,190	育種集団林
⑪	1,850	3.0m
⑫	1,520	3.0m
⑬	2,440	2.5m
⑭	770	静岡コンテナ苗
⑮	430	静岡コンテナ苗
⑯	1,020	1.8m
計	21,910	

## 開発方法

### 1 苗木の種類(スギ)

- ① コンテナ苗(エリートツリー) : H27年度植栽
- ② コンテナ苗(第一精英樹) : H27年度植栽
- ③ コンテナ苗(静岡県産) : H27年度植栽
- ④ 裸苗(在来種) : H28年度植栽

### 2 植栽間隔

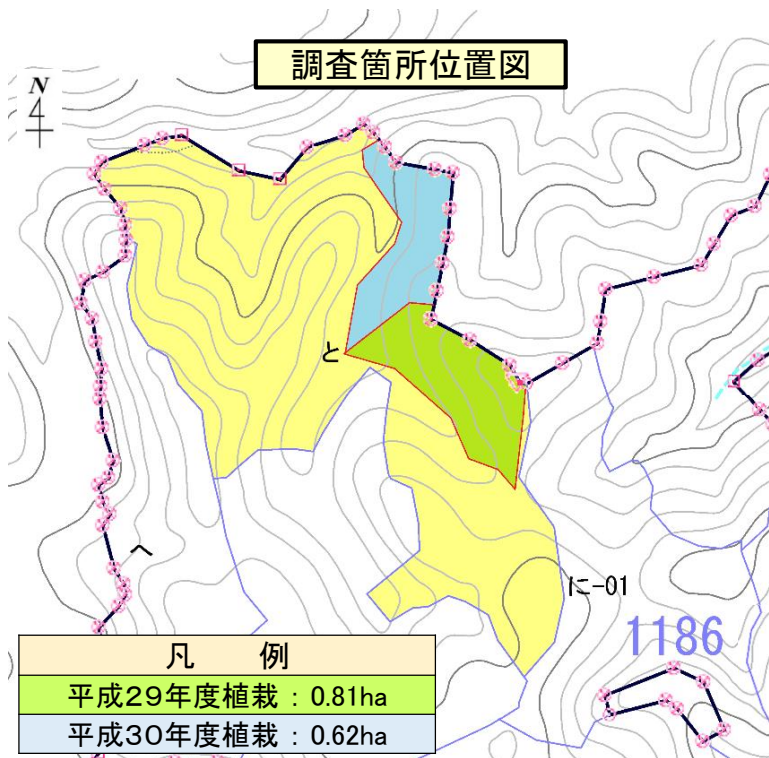
- ① 1.8m (ha当たり3,000本)
- ② 2.5m (ha当たり1,500本)
- ③ 3.0m (ha当たり1,000本)







- 場所：茨城森林管理署管内  
日上市十王町高原 小松沢国有林1186と林小班（一部）
- 期間：平成29年度～31年度
- 共同研究機関：森林総合研究所 林木育種センター
- 概要：系統別のコウヨウザン実生・さし木コンテナ苗等を植栽、活着・成長量調査を行い、系統評価、植栽、密度、下刈期間、間伐期齢、主伐期齢を検証し、育林技術の確立を図る。  
さらに、コウヨウザン造林地の見本林とする。



コンテナで実生を育苗



苗畑で  
実生を育苗



コンテナで  
挿し木を育苗

## 開発方法

### 平成29年度（系統評価試験）0.81ha

- 1 植栽密度・本数：1,600本/ha・1137本植栽
- 2 調査ブロック内植栽苗の種類・本数  
7ブロック設定 674本  
内訳 ① コンテナ実生1年生苗：15系統 352本  
② コンテナさし木1年生苗：5系統 50本  
③ 実生1年生裸苗：9系統 242本  
④ さし木2年生裸苗：3系統 30本

### 平成30年度（密度試験）0.62ha

- 1 植栽本数：1,000本/ha
- 2 苗木の種類：実生2年生裸苗
- 3 調査ブロック内植栽本数 643本  
(内調査対象木 444本)  
内訳 ① 1,100本/ha：144本 ブロック周囲木：53本  
② 1,600本/ha：150本 ブロック周囲木：92本  
③ 2,500本/ha：150本 ブロック周囲木：54本

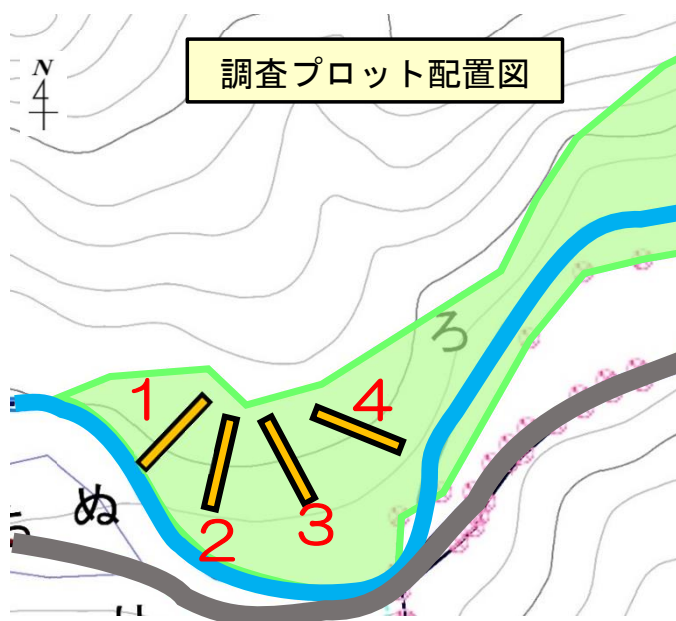


植付実施状況(H29.05)





- 場所：茨城森林管理署管内  
東茨城郡城里町大字御前山  
御前山国有林30ろ林小班（一部）
- 期間：平成24年度～
- 概要：優れた自然景観の維持や保健・文化・教育的利用法の技術の確立を図ることを目的として、高齢級のケヤキ人工林（1885年植栽）を展示林に設定し、その林床で春植物（カタクリ、イチリンソウなど）の植生回復試験を実施している。  
試験地設定年度：1999(H11)年度



カタクリ個体数・葉サイズ・座標調査



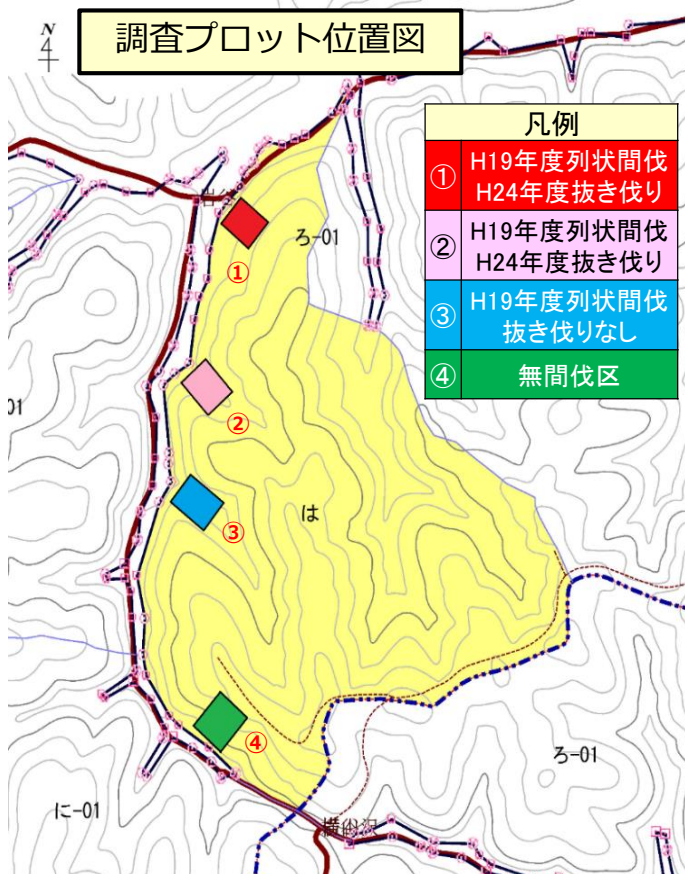




# 列状間伐後の中径木生産による施業の確立

- 場所：茨城森林管理署管内  
東茨城郡城里町大字塩子 岩谷国有林269は林小班（一部）
- 期間：平成27年度～
- 共同開発機関：森林総合研究所
- 概要：列状間伐後には、小径木から中径木までの多様なサイズの樹木が残るが、競合または他の個体を被圧している中大径木を間伐・生産し、木材需要者のニーズに応えるとともに間伐木と競合または間伐木に被圧されていた小中径木を将来木として育てる森林施業を検討する。

試験地設定年度：2007(H19)年度



調査プロット：40m×50m=0.20ha×4箇所  
①②は1伐1残、1伐2残、1伐3残を設定



列状間伐後の林相



# 下刈時期及び立地を考慮した 下刈省力化技術の開発試験

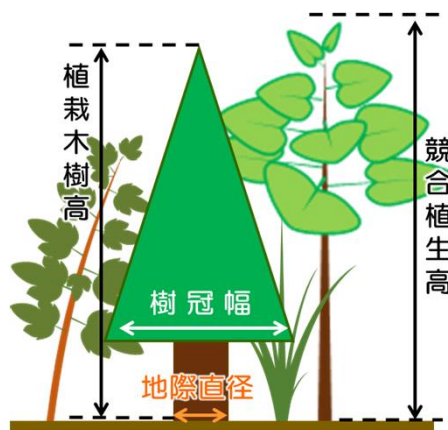
- 場所：①茨城森林管理署管内  
茨城県東茨城郡城里町大字錫高野 梅香沢国有林22ヶ林小班  
②福島森林管理署白河支署管内  
福島県石川郡古殿町大字大久保 ラテマ国有林1241や林小班他
- 期間：①平成30年度～令和4年度 ②令和2年度～令和5年度
- 共同開発機関：森林総合研究所
- 概要：人工林施業のなかで最も費用と労力を必要とする夏季における下刈作業の省力化を図るために、夏季以外の春季や冬季の下刈の可能性を検討する。また、植栽木及び下刈対象木となる雑草木の成長は林分内ではばらつきがあるため、立地による下刈省略化への影響も併せて検討する。



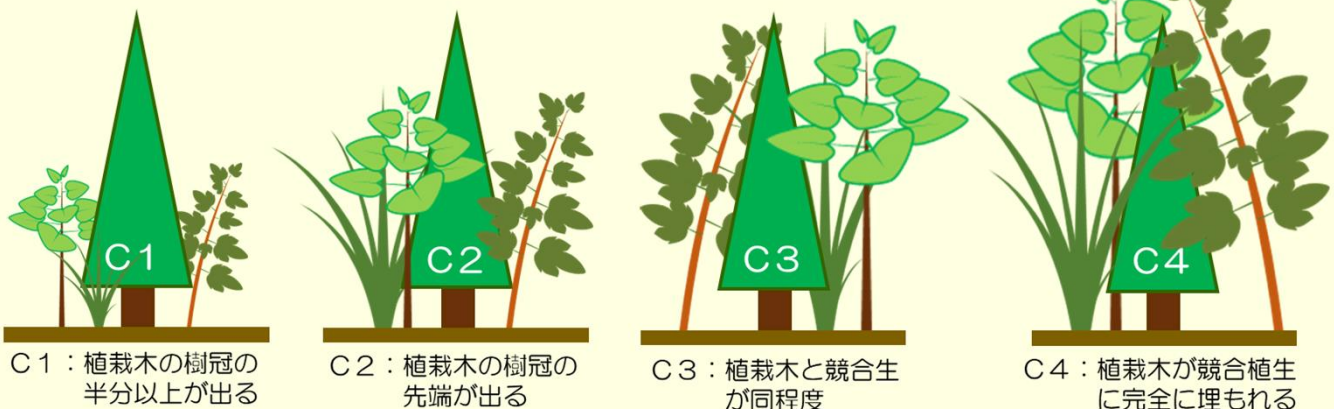
## プロット内調査方法

- 調査時期  
8月（夏下刈前）
- 下刈時期  
①夏下刈（9月）  
②春下刈（5月）  
③冬下刈（12月）

## ■植栽木・競合植生の調査 (植栽木の半径50cm)



## ■競合状態の調査

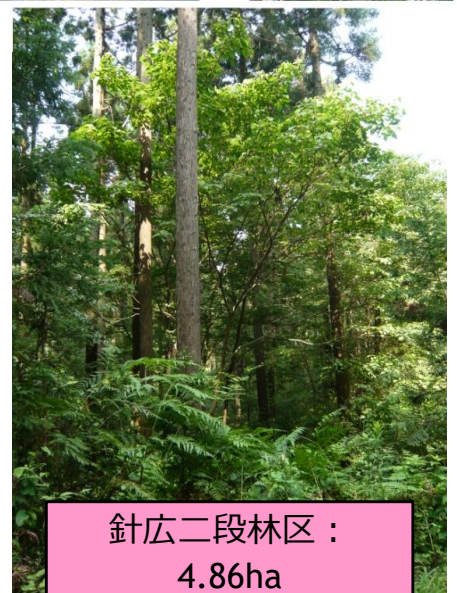
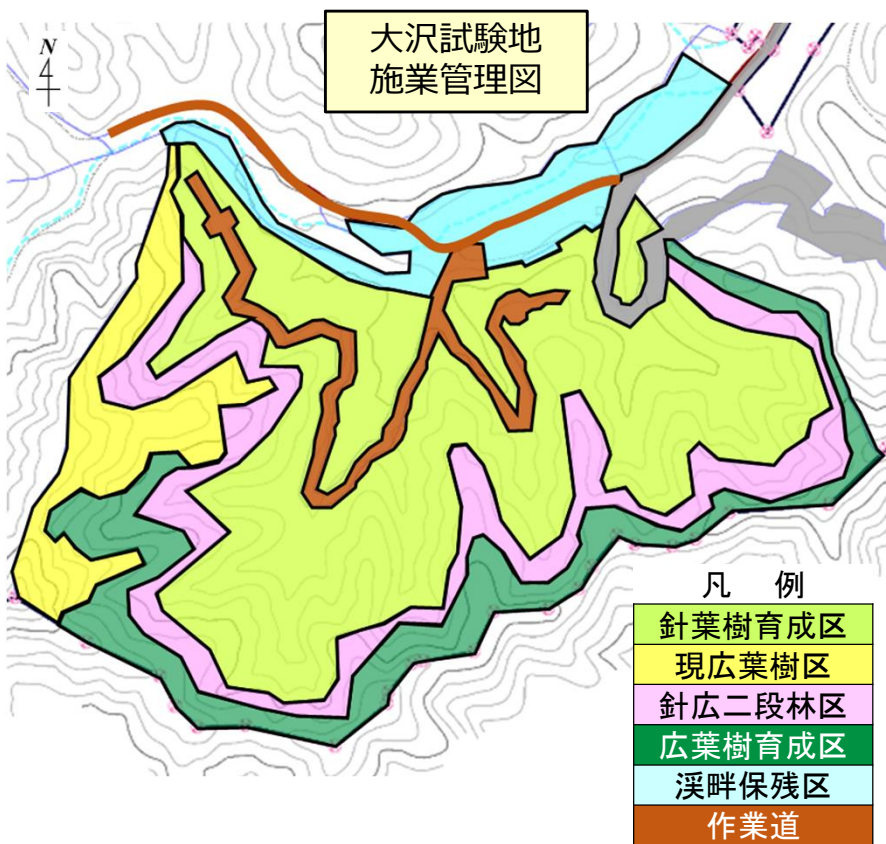




# 森林生態学的機能に配慮した 施業区分と森林管理技術のモデル試験

7 大沢

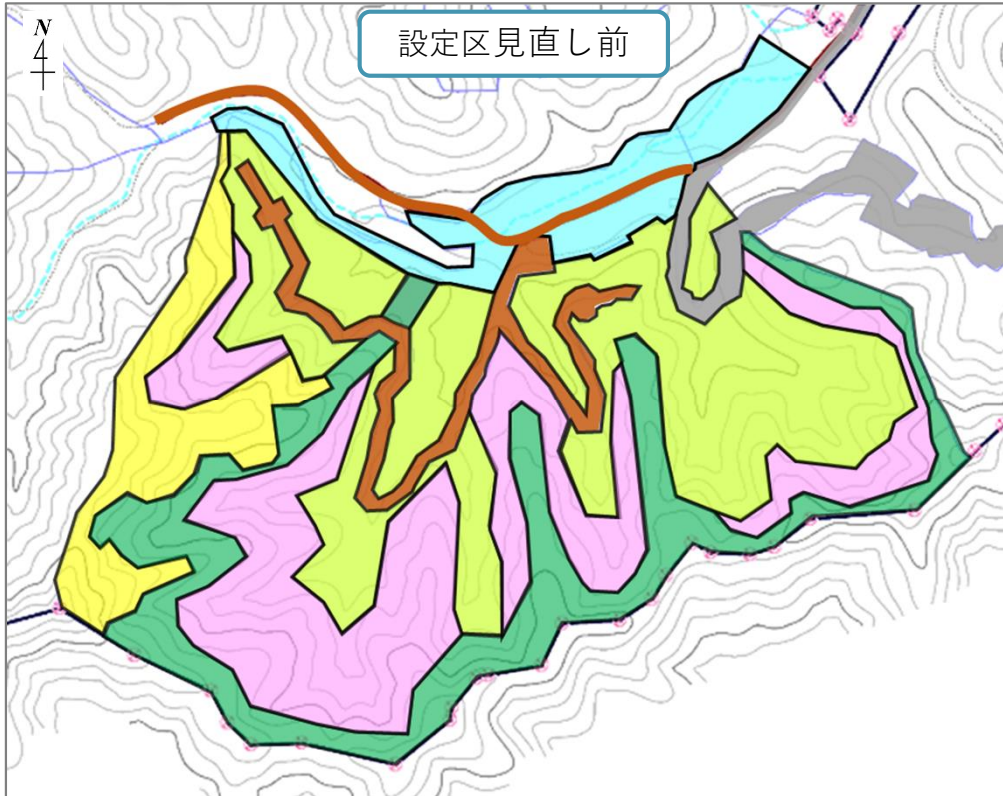
- 場所：茨城森林管理署管内 【大沢施業指標林試験地：約21ha】  
東茨城郡城里町大字下赤沢字 大沢国有林258ろ2林小班 外
- 期間：平成26年度～令和54年度
- 共同開発機関：森林総合研究所
- 概要：現在の針葉樹一斉人工林に適度に広葉樹を導入配置して、林分内容の多様化を図り、長伐期化に伴う木材生産機能と公益的機能のバランスのとれた効率的な森林づくりを実践し、施業指標林とするとともに森林管理手法を見いだす。  
試験地設定年度：1996(H8)年度  
植栽年度：1952(S27)年度





# 施業管理区域の見直し

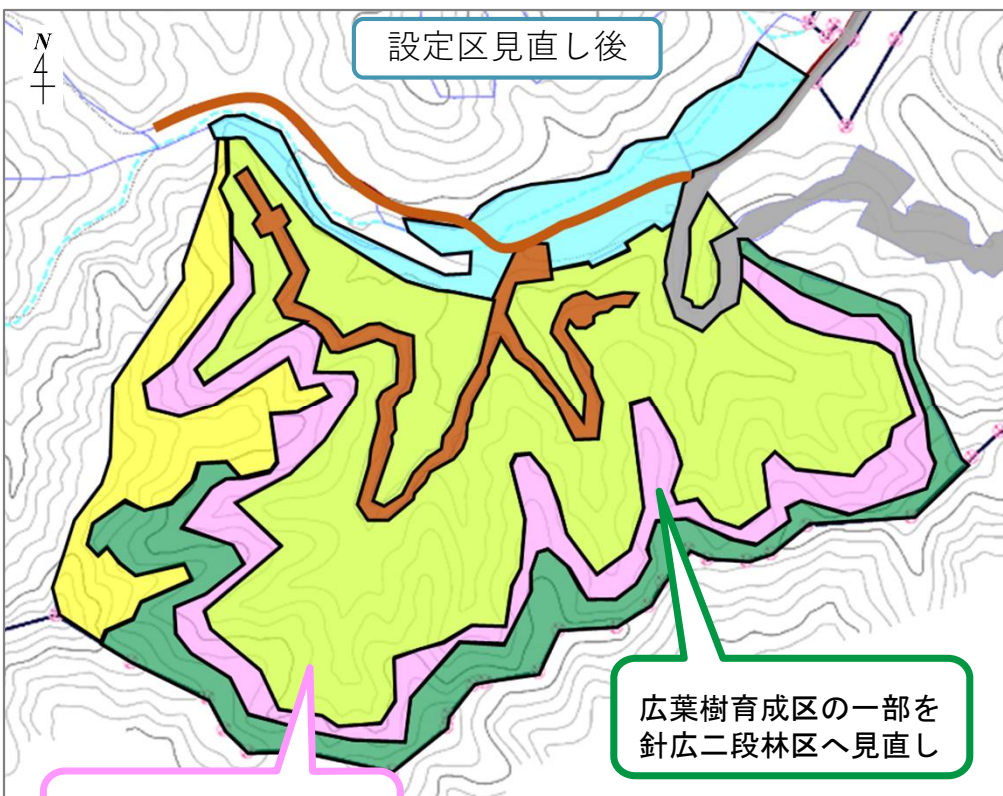
平成25年度に多面的機能（木材生産機能と公益的機能）を高度に発揮する効率的な施業を実施するため、森林踏査の結果にもとづいて施業管理区域の見直しを行いました。



●尾根部ヒノキの成長は他の箇所と比較すると劣っているものの、針広二段林区と針葉樹育成区では成長差が見受けられない箇所もあったので、針広二段林区の一部について針葉樹育成区への見直しを検討。

## 凡 例

	針葉樹育成区
	現広葉樹区
	針広二段林区
	広葉樹育成区
	溪畔保残区
	作業道



●針広二段林区については、針葉樹育成区との成長差がなく、搬出も容易な箇所を針葉樹育成区とした。

●小尾根部ヒノキの成長は悪くないが、搬出条件から、一部について広葉樹育成区から針広二段林区とした。

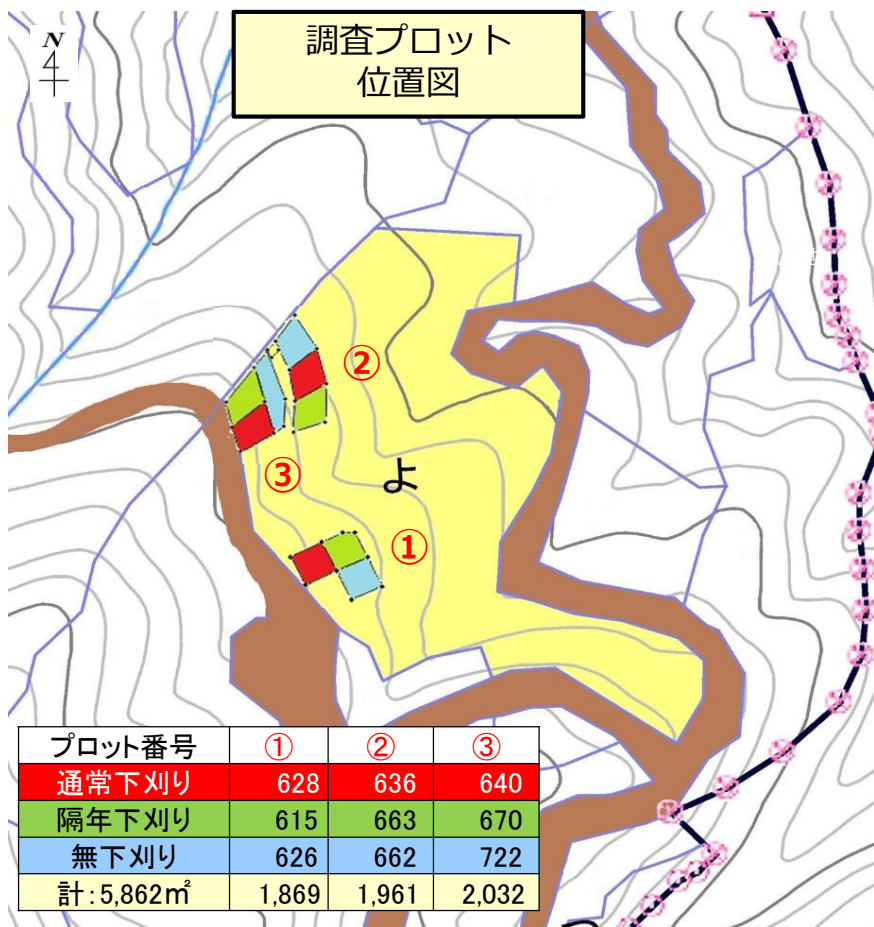
針広二段林区の一部を針葉樹育成区へ見直し

広葉樹育成区の一部を針広二段林区へ見直し



# 様々な苗サイズに適応した下刈り技術の開発

- 場所：茨城森林管理署管内  
桜川市木植 天岳良国有林238よ林小班（一部）
- 期間：平成31年度～
- 共同開発機関：森林総合研究所
- 概要：様々なサイズの苗（大・中・小サイズ）のヒノキ苗を植栽し、下刈り頻度を変えて施業することで、様々なサイズに対して必要な下刈り量を解明する。



調査プロット箇所の空中写真  
2017(H29)年10月撮影



### 開発方法

- 苗木の種類 (ヒノキ)**
  - ① 1年生裸苗 (茨城県苗組)
  - ② 1年生コンテナ苗 (センター育苗)
  - ③ 通常・裸苗 (茨城県苗組)
  - ④ 大サイズ・裸苗 (茨城県苗組)
- 下刈り処理**
  - ① 通常 (毎年下刈り)
  - ② 隔年下刈り
  - ③ 無処理
- 反復回数**  
苗サイズ (4種、各20本) × 下刈り処理 (3タイプ) × 3反復
- ha当たり植栽本数**  
2,000本

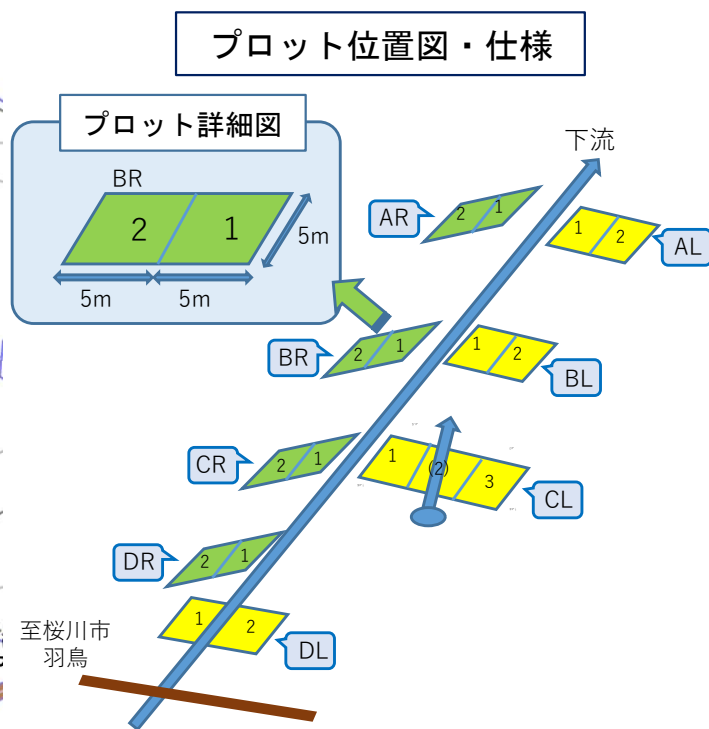
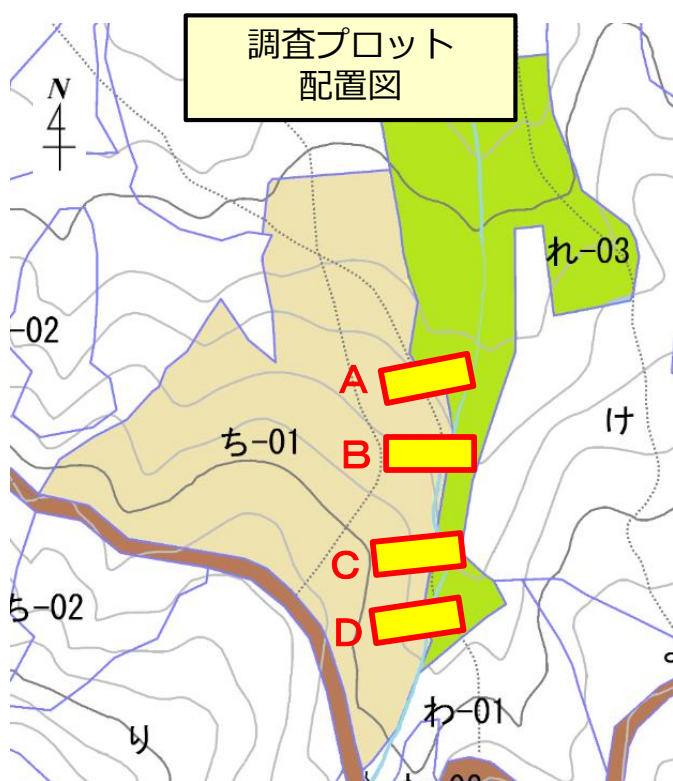
植栽イメージ図

..... コンテナ苗・小サイズ  
 — 裸苗・小サイズ  
 — 裸苗・中サイズ  
 — 裸苗・大サイズ



# 針葉樹人工林皆伐跡地における 溪畔域再生試験

- 場所：茨城森林管理署管内  
桜川市真壁町羽鳥 土俵場国有林207ち1、れ3林小班
- 期間：平成29年度（設定）～
- 概要：人工林皆伐跡地における失われた溪畔林を再生・保護し、土砂流出の防備や生物多様性の機能と景観を回復させることを目的とする。



## 開発方法

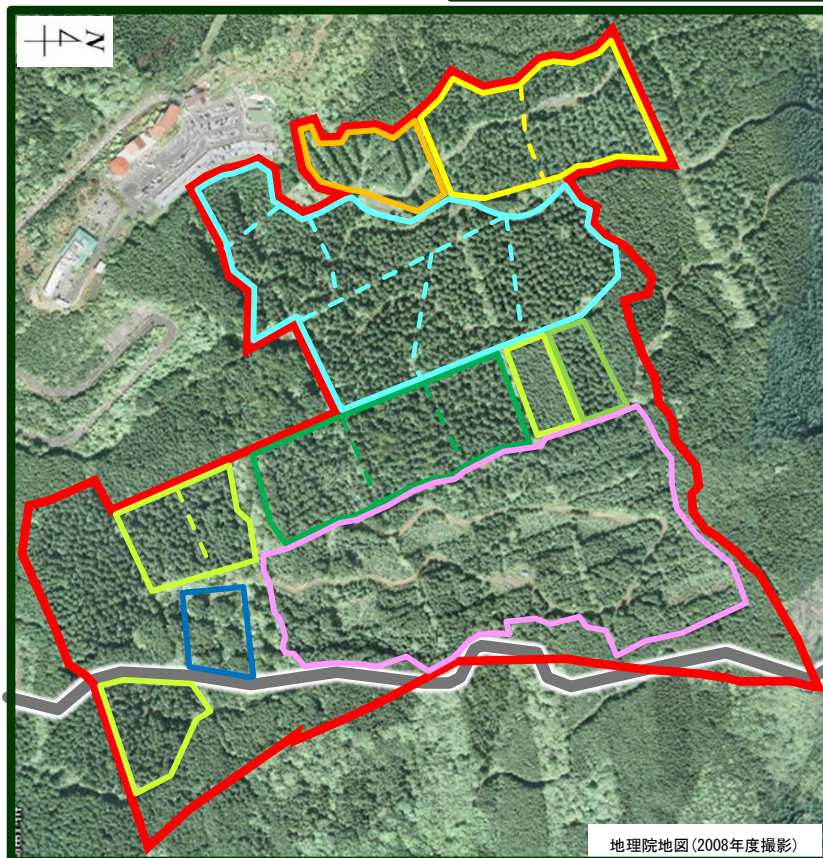
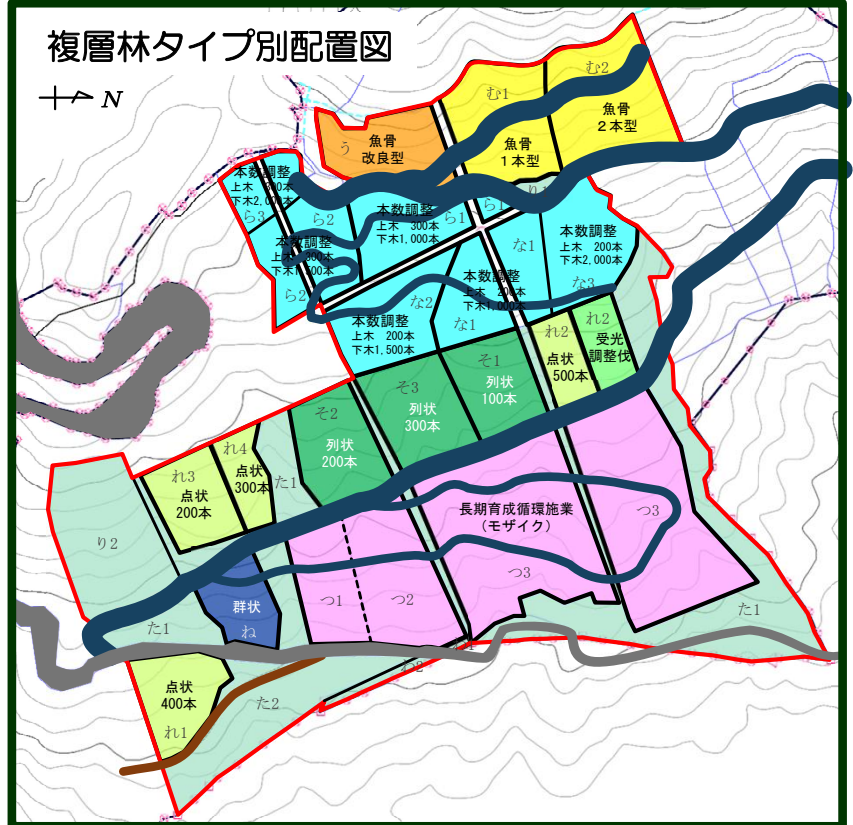
- 1 広葉樹の植栽  
クヌギとヤマザクラの苗木を2018年5月に植栽（茨城署）。
- 2 活着、成長・植生調査  
活着調査  
成長・更新木・植生調査を定期的実施する。
- 3 育林技術の確立  
更新してきた広葉樹の育成方法等主要樹種と他樹種との成長特性を比較し、育林技術の確立を図る。





- 場所：茨城森林管理署管内 【筑波山複層林試験地：約27ha】  
石岡市小幡 横道国有林223た1林小班 外
- 期間：平成21年度～
- 共同開発機関：森林総合研究所
- 概要：景観維持を必要とする施業対象林分の風致施業を体系化するため、高年齢人工林の間伐などを実施して二段林などの施業を行う。  
試験地設定年度：1977(S52)年  
上木植栽年：1901(M34)年

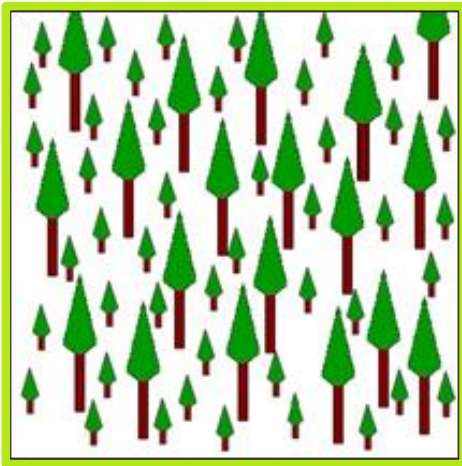
- ### 8タイプ 19区画
- 1 点状保残区  
(200・300・400・500)
  - 2 群状保残区
  - 3 列状保残区  
(100・200・300)
  - 4 受光調整伐区
  - 5 長期育成循環施業区  
(モザイク)  
(旧带状保残区  
(等高線状・直線状))
  - 6 植栽本数調整区  
(200-1000・1500・2000  
300-1000・1500・2000)
  - 7 魚骨型伐採区  
(1列型・2列型)
  - 8 魚骨改良型伐採区



- ### 凡 例
- 県道
  - 試験地区域
  - 点状保残区
  - 群状保残区
  - 列状保残区
  - 受光調整伐区
  - 長期育成循環施業区 (モザイク型)
  - 本数調整伐区
  - 魚骨型伐採区
  - 魚骨改良伐採区

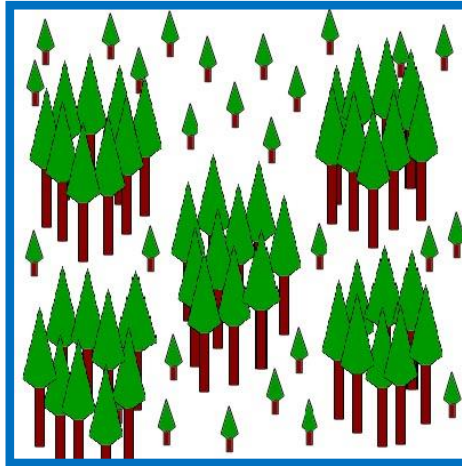


# 複層林施業タイプ



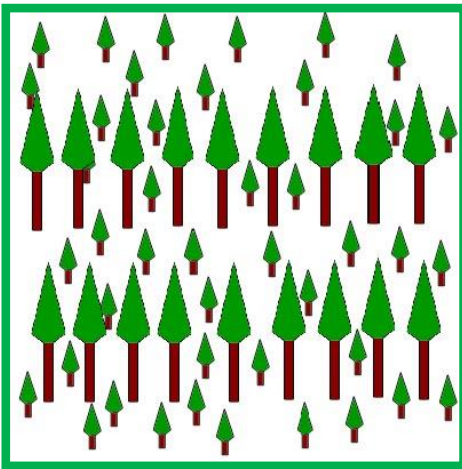
①点状  
保残区

上層木を点状に残し下層木を植栽。



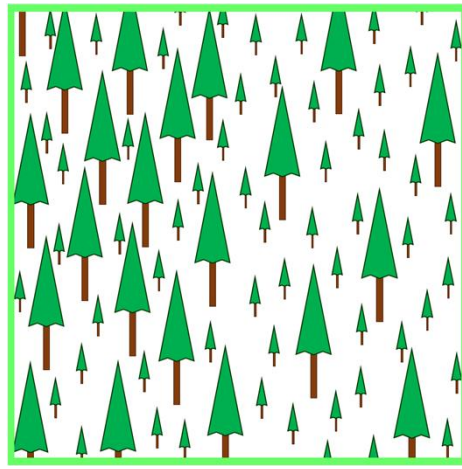
②群状  
保残区

上層木の樹高を基準にほぼ円形の群に残し下層木を植栽。



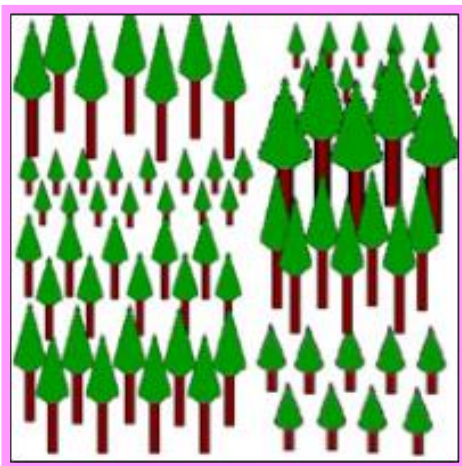
③列状  
保残区

上層木を列状に残し下層木を植栽。



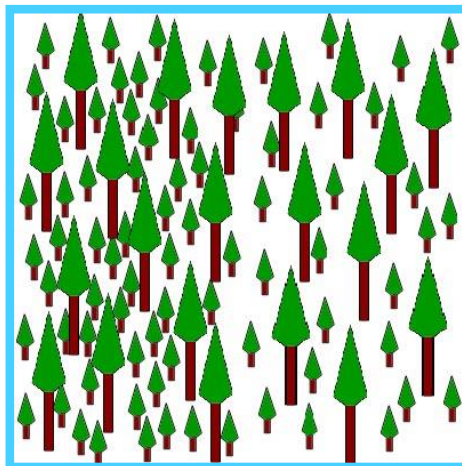
④受光  
調整伐区

上層木の密度を照度調整のため、植栽10年後に間伐。



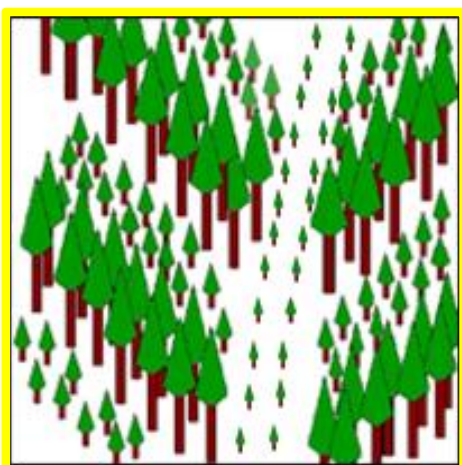
⑤長期育成  
循環施業区

モザイク的に伐採と更新を繰り返し、高齢級の8段林へ誘導。



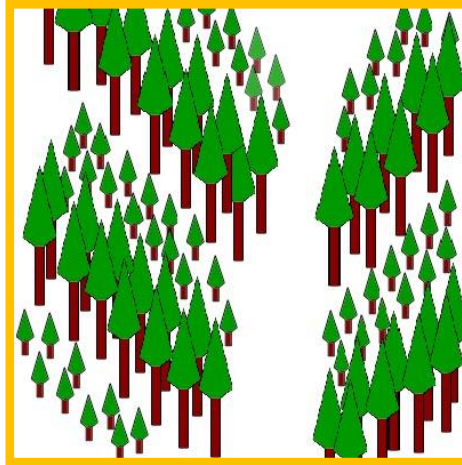
⑥植栽本数  
調整伐区

上層木を点状に残し、下層木の密度を変えて植栽。



⑦魚骨型  
伐採区

上層木を魚の背骨と小骨の形に伐採し、下層木を植栽。間伐ごとに背骨は移動。



⑧魚骨改良  
型伐採区

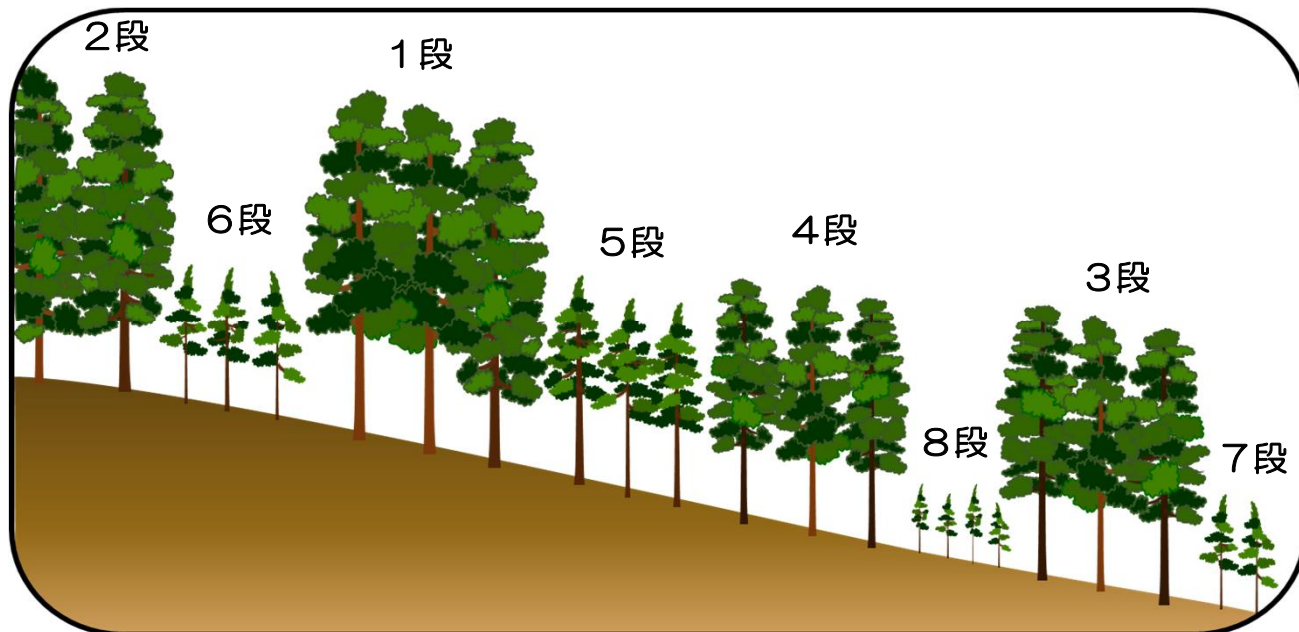
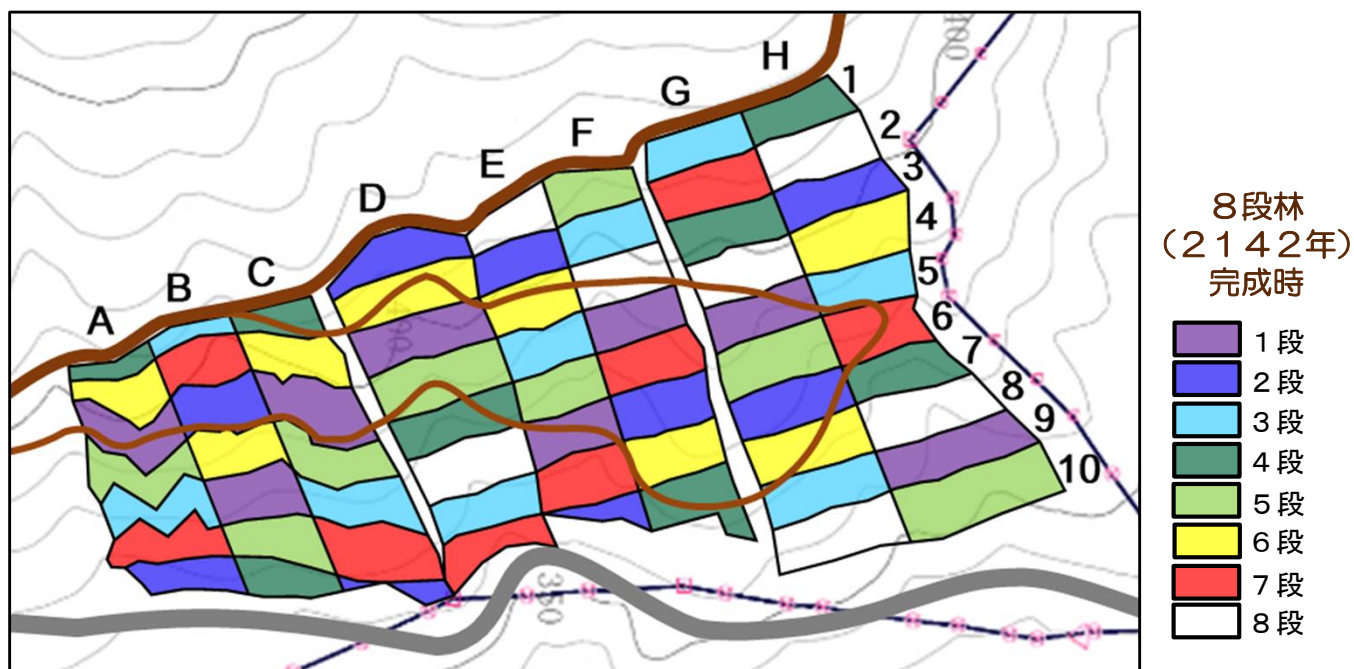
上層木を魚の背骨と小骨の形に伐採し、下層木を植栽。背骨には下層木の植栽は行わず固定。





- 場所：茨城森林管理署管内  
【筑波山長期育成循環施業試験地（モザイク）：約9ha】  
石岡市小幡 横道国有林223つ1・つ2・つ3林小班
- 期間：平成14年度（設定）～
- 共同開発機関：森林総合研究所
- 概要：針葉樹一斉人工林について、モザイク的に伐採・更新を繰り返すことにより林分構造を多様化し、森林資源の循環利用と併せて生物多様性を保全する森林へ誘導するとともに、路網整備による施業の効率化を図りながら多面的機能を発揮する長期育成循環施業を確立する。（1区画平均面積：0.14ha）  
試験地設定年度：2002(H14)年  
植栽年度：1段目：1901(M34)年  
2段目：1982(S57)年、1983(S58)年  
3段目：2003(H15)年

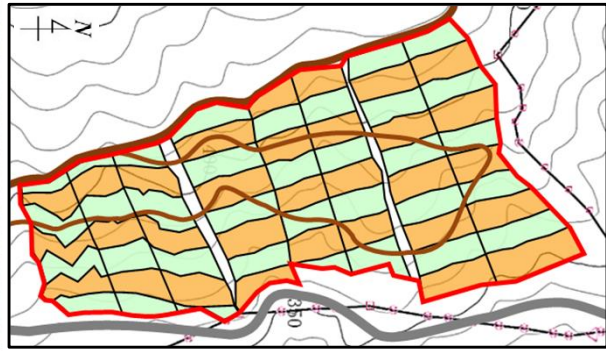
長期育成循環施業設計図



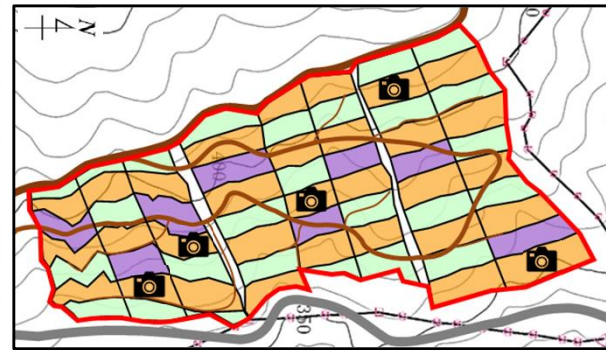


- 4段林への誘導 -

2段林 (1983年)  
モザイク施業実施前 (旧带状保残区)

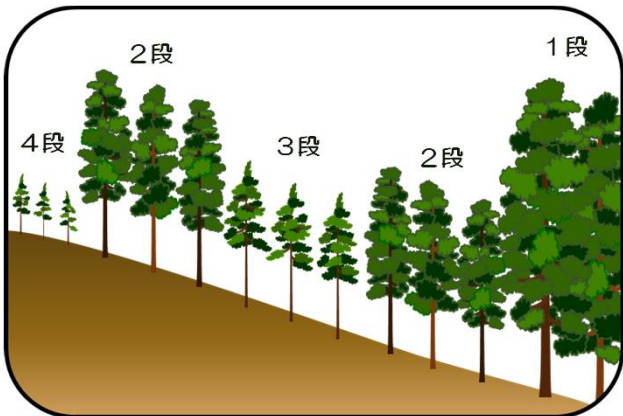


3段林 (2003年)  
モザイク設定

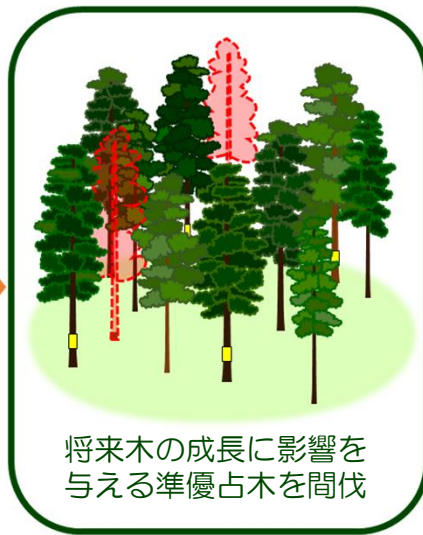


4段林 (2023年予定※)  
モザイク設定

※2024現在、未実行



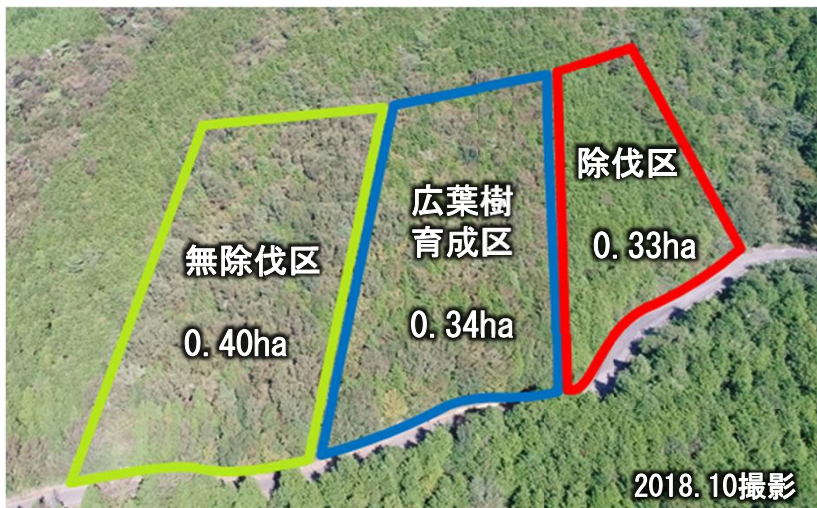
- 選木育林法(中層間伐法) -





# 若齢の針葉樹人工造林地に混生する 広葉樹の育成試験

- 場所：茨城森林管理署管内  
つくば市上大島 前峰国有林210ら2林小班（一部）
- 期間：平成19年度～
- 概要：生物多様性の維持・保全等に配慮した森林づくりに資するため、成育不良な造林地については、広葉樹が適度に混在する針広混交林へと誘導していくための森林施業を検討する。  
試験地設定年度：1996(H8)年



試験地の施業履歴

年/区域	無除伐	育成	除伐
1986		植栽	
1986～1990		下刈	
1996		試験地設定	
1997		除伐	除伐
2000			除伐
2003		除伐(笹のみ)	
2005		枝払(広葉樹)	
2008		除伐	
2010			除伐

除伐試験区林相



無除伐区



広葉樹育成区



除伐区

## 除伐における育成複層林へ誘導するための伐採木基準（H23年度作成）

### 植栽木

良質な広葉樹の育成を阻害している下記の①～④の形質不良木を伐採する。

ただし、形質不良木であっても良質な広葉樹の生育を阻害していない限り伐採しない。

- ①曲がり
- ②二股
- ③ツル被害
- ④①～③以外の形質不良木

### 広葉樹

①良質な植栽木または良質な広葉樹の育成を阻害している形質不良木を伐採する。

②良質な広葉樹の枝が良質な植栽木の生育を阻害している場合のみ伐採する。



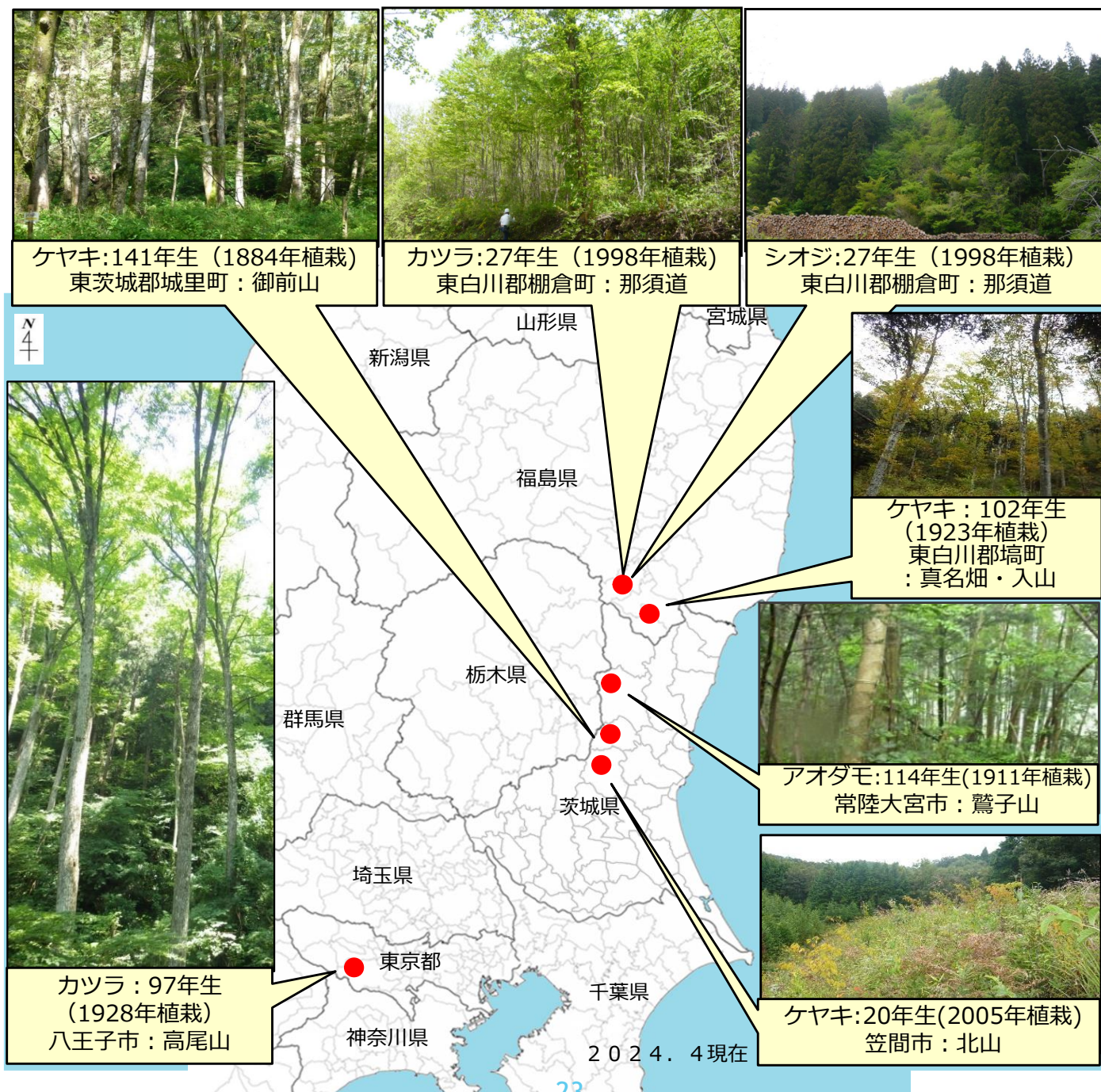


- 場所：①茨城森林管理署管内  
東茨城郡城里町大字御前山 御前山国有林30ろ林小班
  - ②棚倉森林管理署管内  
福島県東白川郡棚倉町 那須道国有林18い3林小班
  - ③東京神奈川森林管理署管内  
東京都八王子市 高尾山国有林232ろ林小班 外4箇所
- ※関東森林管理局管内において、広葉樹を植栽した造林地等も多数あり、これまでの調査データ、森林簿等についても活用する。

●期間：平成31年度～

●共同開発機関：森林総合研究所

●概要：拡大造林により植栽された人工林が伐期を迎え、広葉樹への樹種転換の増加が予想されることから、広葉樹植栽地や針葉樹からの誘導による広葉樹林化を目指す林分に調査区を設定し、広葉樹の育成方法や将来目指すべき林型を示すことを目的に行う。  
試験地設定年度：1999(H11)年







- 場所：茨城森林管理署管内
  - ①久慈郡大子町大字上岡  
中ノ内沢国有林2125に林小班（スギ）
  - ②高萩市下君田  
横山国有林1074に1、へ2林小班（スギ）
  - ③常陸大宮市大字高部  
尺丈山国有林50ろ1林小班（サワラ） 外15箇所
- 期間：平成19年度～令和9年度
- 共同開発機関：森林総合研究所
- 概要：現存する高齢級人工林を調査することにより、長伐期施業と高齢級の林分構造の違いなどのデータや資料を得て今後の人工林施業の参考とする。  
試験地設定年度：2001(H13)年度

2024.4現在

No.	市町村	名称	林小班	樹種	林齢 (植栽年)
①	久慈郡大子町	中ノ内沢	2125に	スギ	223 (1802)
②	高萩市	愛林の森	1074に1・へ2	スギ	115 (1910)
③	常陸大宮市	尺丈山Ⅰ	50ろ1	サワラ	118 (1907)
④	"	尺丈山Ⅱ	50と	サワラ	113 (1912)
⑤	"	七内	54ほ	ヒノキ	114 (1911)
⑥	"	桧山	42る	スギ	123 (1902)
⑦	水戸市	成沢	1ほ	ヒノキ・広	176 (1849)
⑧	"	不動山	132い1	サワラ	272+ (1753)
⑨	東茨城郡城里町	御前山	30い1	スギ ヒノキ	171+ (1854)
⑩	"	清音寺	15い	ヒノキ	242+ (1783)
⑪	"	内山	31は	ヒノキ	119 (1906)
⑫	"	道木橋	271よ1 " た	ヒノキ	124 (1901) 120 (1905)
⑬	笠間市	仏頂山	242ほ	ヒノキ スギ	299 (1726) 154 (1871)
⑭	"	佐白山	251は	ヒノキ	199 (1826)
⑮	石岡市	筑波 道路下	223り1	ヒノキ	124 (1901)
⑯	"	筑波 400本下	223た2	ヒノキ	124 (1901)
⑰	"	つくばね	223に	ヒノキ	115 (1910)
⑱	"	月の折	222て	サワラ	123 (1902)





# 民有林支援・技術の普及等の紹介

## 令和6年度 実施事項

### 1. 試験地の活用

#### (1) 森林・林業技術見学プログラム

市町村等の森林・林業担当者に対し、国有林試験地等を活用した「見学コース」の設定。国有林で実施している各事業について、民有林の森林計画策定や森林管理等への参考にするため現地見学会等の実施。

#### (2) 体験林業

森林資源把握のための調査方法や国有林で実施している様々な業務についての林業体験等も企画検討する

### 2. 情報発信

#### (1) 市民向け森林・林業公開講座

森林技術・支援センターでは、職員が技術開発課題で取り組んだ成果及び各研究機関等の研究成果を県内林業関係者や森林・林業に関心のある一般の方々に国有林の取組や森林・林業について理解を深めていただくことを目的に森林・林業公開講座を実施します。

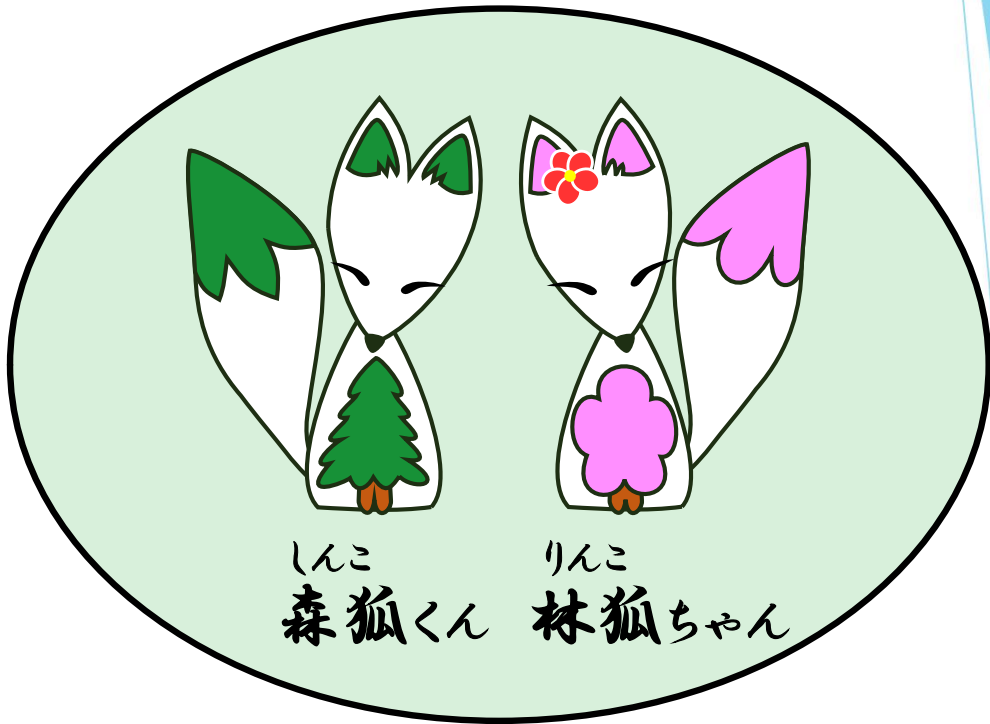
#### (2) HPによる発信

局技術開発課題及び自主課題にかかる成果、森林・林業技術等交流発表会、関東森林学会、森林・林業公開講座にかかる資料、生物多様性と希少植物同定の参考となる資料や当センター等が開催する現地検討会について、配布資料及び動画等をホームページに掲載しています。

#### (3) 現地検討会

様々なフィールドを活用して、林業関係者等向けに、森林資源把握の調査方法（収穫調査）等の先端技術の紹介を踏まえた現地検討会を行う。





国民の森林・国有林

関東森林管理局  
森林技術・支援センター

〒309-1625 茨城県笠間市来栖87-1

TEL: 0296-72-1146

Email: [ks\\_kasama\\_postmaster@maff.go.jp](mailto:ks_kasama_postmaster@maff.go.jp)